特29-741
1200800174053

七×394
2124

尾崎學堂著

正訂 少年論

第六版

東京 書林 博文堂發兌

特29
741

訂正少年論第六版序

庚寅臘月塵煩ヲ函山温泉場ニ避ク。偶々博文堂主人來リ謁シテ曰ク貴著少年論世ニ行ハルヽコト久シ。而シテ今ヤ天下ノ少年大ニ氣燄ヲ吐キ、雜誌學會及ビ政社等ニシテ少年ノ二字ヲ冠スルモノ全國ニ充滿ス是レ畢竟先生ノ先唱ニ是レ因ルナリ。少年論ノ需求、年ヲ經テ益々多キノ一事以テ之レヲ証スベシ。近日第六版ヲ刊行シテ世上ノ需メニ應セント欲ス。先生モシ公暇ニ乘ジテ、小序ヲ賜ハラバ幸甚ト。因テ更ニ之ヲ

一讀スルニ三年有半以前ノ舊著ニ係ルト雖モ、其論旨ニ至ツテハ、今尚ホ世ニ行ハレザルモノ多シ。乃チ聊カ字句ヲ訂正シテ主人ニ還ス。

明治二十四年一月

函山湯本萬翠樓ニ於テ

學堂居士

序

「書生〳〵」と輕蔑するな今の太政官は皆ゐ書生と是れ明治三四年の頃にあたり專ら世間に流行せ〳〵俗曲なり當時余は少年を以て府下に遊學し各處の下宿屋又ハ酒樓に於て書生の唾壺を敲いて此曲を謠ふを聞き竊かに其の意氣の盛んなるに驚きたり蓋し維新の初めにあたり廟堂に立つて天下の大政を左右せしものは概ね各藩の豪傑にして毫も門地門閥なく前日までは寒貧の一書生なりしも已れが才氣膽力に

よりて直ちに青雲に上ぼり金刀を帶び鐵馬に騎り叱咤風を生ずるの勢あり是に於てう各地の少年も風を聞いて興起し手に唾きして一世の事業を成さんと欲せざるは無く威權の赫々たる廟堂君子を認めて已れと同一なる一書生となしたり假令ひ兵馬の後を承け學術未だ開けず書生は概ね客氣の爲めに支配せられて其の智識の缺乏する所ありしにもせよ其の勇敢進取の氣象あるの一事に於ては決して今日軟弱なる書生と日を同うして語るべきに非るな

り爾來歲月を經過し明治政府の其の基礎を確定するに及び出でて得意の地に立つ者は僅かに全國中一部分の人々にて當途者と直接の關係を有せざれは如何に自ら抱負する所あるとも鬱抑して其の才氣を展はすの道なく其の民間に立ち政事上に奔走するものは度々の艱難に際會して自ら方向を誤るに至れり是に於て世の書生は復た獨立獨行の氣象無く僅かに區々たる藝能を以て一身を立て一家を成さんとするに過ぎず其の進んで國家の大事を擔當せ

んとするの大望心あるものとては落々として晨星ふ異ならず蓋し今の書生を以て之を明治初年の書生に比すれは學問技藝に於ては或は大に進歩する所あるべきも其の氣象の活潑なるに至つては覆かに相及ぶ能はざるなり今や天下昌平無事なるが如くなれども外交上の艱難は愈よ急にして愈よ大ならんとし内政の如きも大識見あり大氣力あるもの出でゝ之を擔當せざるべからず後來此任に當るものは維新の前後に功名を成せし人に非ずして今日下宿

の樓上に立籠る血氣の少年ならん夫れ區々たる學問と經驗を以て自ら甘んじ口に卷煙草を咬へて龍動、巴里の交際社會の有樣を誇稱し舞踏宴會の間に狂奔する者の如きは之を度外に放棄して可なり後來政事上ふ向ふて其の力を盡すべき責任ある少年にして毫も氣骨無く其の柔弱なる婦人の如くなれは其れ將た我邦の前途を如何んせん是れ學堂兄の慨嘆して少年論の著ありし所以にして此の書の如きは誠に後進子弟の爲めに項上に一針を加へしものと

謂ふべきなり然れども今よりして政事上に向ふて其の力を述べんとするには是非とも十分の學問あり智識と氣力の兼ね備るを要す學堂兄の大聲疾呼する所は要するに弊を矯め過を匡すの微意に外ならざるなり若し今日の書生に向ひ一の客氣に依頼して天下の大事を處することを求むると爲せは善く此書を讀むものに非るかり歳月の經過するは流星飛丸の如く諸君が大業を成就するの機會は已に眼前に在り今の社會の上流に立つものは皆な二十年前の少年なりしことを知り智識才力氣象を以て進んで之を壓倒するの道を思へ

明治二十年十月廿日　　鐵腸記す

緒言

余の嚮きに少年論三編を著はして朝野新聞に掲ぐるや聊か世上の感稱を博せしものと見ゐ之を求むる者陸續社前に群至し數百の殘紙忽ちにして一紙を留めざるに至れり尋て續少年論二篇を掲ぐるや亦前例の如し爾後既に四旬を閲すと雖も購求の客尚ほ社門を叩く社員小篠氏世人の愛顧に背かんことを恐れ余に計るに再刊の事を以てす余乃ち欣然許諾し訂正を加へ更に「壯士の勢力及ひ責任」と題する一篇を

附加して氏に授く前五章は皆な余の意を授て筆記せしめたる者にして自ら筆を執りたるは結末の一章に止まる故に議論文章自ら精粗の別なきに非ずと雖も余が持論たるに至ては則ち一なり

丁亥中秋　學堂居士誌

訂正少年論

目錄

第一章　社會と少年の關係
第二章　時弊と少年の關係
第三章　既往及び現在の少年
第四章　少年の無氣力なる最大原因
第五章　老人と少年の關係
第六章　壯士の勢力及び責任

訂正少年論

學堂　尾崎行雄　著

第一章　社會と少年の關係

老少ノ義務責任ヲ論斷スルヿ明快銳利、天下ノ少年ヲシテ九鼎大呂ヨリ重カラシム

專ら現今の日本を經營する者は壯年以上の人なり專ら將來の日本を經營すべき者は今日の少年なり、見るべし少年の國家に對する義務責任は之れを壯年以上の人に比するに唯だ現今と將來との差あるのみにて毫も大小輕重の別なきことを、否な國家の前途を推考すれば益々多事紛擾なるべきの形勢あり靜穩無事な

鴨脛雖短、不可補之、鶴脛雖長、不可截之、老者持重、少者鋭進、剛柔相須、天下之事始成、造化之配劑、可謂妙矣、

る現在の日本社會を經營する所の老成者流に比すれは少年の將來に負ふ所の義務責任豈に大にして且つ重らざらんや想ふに沈着持重の計畫を立てゝ世事を經營する者は老成者なりと雖ども之れに活潑激烈なる少年の意想を混和するにあらずんは其の弊や流れて因循姑息と爲る而して因循姑息の流弊の社會を害するは猶ほ肺肝の病の人身を害するがごとく其の弊一時に現はれずと雖とも漸衰漸弱、必らず其の生命を失ふに至る然らは則ち少年の義務責任は專ら將來に在りと云ふと雖ども其の現在に負ふ所のものも亦

少年ハ眞ニ貴重ノ配劑ナル哉

た決して淺少なりと云ふべからざるなり世の少年者流其の責任の此の如く重大なることを知らず動もすれは空々寂々として貴重の日月を送過する者あるは何ぞや

因循姑息の弊害を矯めて沈着持重の利益を全うするものハ活潑壯快なる少年の言行なり社會にして苟も此の配合劑を缺く時は聖人ありと雖ども遂に老衰疲弱の憂を防止すること能ゝず故に少年の國家に於けるは何れの時と雖ども其の必要を見ざるはなく今日の時勢に於て特に其然るを見る何となれは今の時勢

は變化の時勢なれはなり進歩の時勢なれはなり舊を棄てゝ新に遷るの時勢なれはなり上は制度法律より下は衣食住の細目に至るまで悉く變化改良を要するの時勢なれはなり而して舊態に泥んで遷ることを好まざるは老成者流の常情なり故に事を其の爲す所に一任すれは變化改良の進歩自ら遲鈍ならざるを得ず我れに比すれは遠く先發の勢を制する所の歐米諸國は駸々乎として駟馬も尚ほ及はざる長足の進歩を爲すに方り半開不文の位地に在る所の本邦にして若し遲鈍の進歩に安んせは前後遲速の懸隔は必らず天淵萬

本邦少年ノ爲メニ氣ヲ吐ク萬丈

里の差を生すべし故に我國今日の時勢は最も迅速の進歩を爲さゞるべからざるの時勢にして之れを爲さんと欲せは勢ひ少年の活潑壯快なる言行に依賴せざるべからず是れ何れの邦國と雖ども少年の勢力を要せざるはなけれど本邦目下の形勢は之れを要すること遠く歐米諸國に過る所以なり世の少年者流其の義務責任の斯くも重大なるを知らず動もすれは空々寂々として貴重の日月を送過する者あるは何ぞや

泰西の思想文物は其の内情外形全く東洋の思想文物に異なり故に久しく東洋風の空氣に養成せられたる

是レ老人ノ心胸ヲ看破シタルノ言ナリ

老成者流は之れを理解領得すること極めて難く聰明叡智の人と雖ども之れを見聞して其半を領する能はず況んや尋常一樣の人物をや之れに泰西の思想を移さんと欲して千萬言を費すも結局馬耳東風たるに過ぎず見よ〳〵世の老成者流は風潮の爲めに漂流せられて知らず識らず文明の彼岸に達せんとするの狀あり雖ども其の進退擧止は總て己が心意に出るに非ず唯た風潮の刺擊を被つて然るのみ故に少年少しく活潑の運動を休めて世上の風潮稍や其の勢力を減すれば彼の漂流者たる老成人士は忽ち方向を轉じて東

眞個好適例

三タビ何ヴヤノ詰問辭ヲ疊用シ益々重ヲ少年ニ加フ議論愈々警拔ナルヲ覺フ

洋の思想文物に復せんとするに非ずや今を距ること三四年以前支那學遽かに其の勢力を恢復せんとしたるが如きは以て之れが適例と爲すべし而して進歩改良の風潮を作る者は少年なり少年の本邦今日に必要なること豈に歐米諸國の比ならんや然るに世の少年者流、其の義務責任の斯くも重大なることを知らず動もすれば空々寂々として貴重の日月を送過する者あるは何ぞや

社會の表面に立つて事務を執る者は壯年以上の人なり進歩改良の風潮を作つて之れを指揮命令する者は

喩得妙、人ヲシテ頤ヲ解カシム

詈得痛快、世ノ輕薄無腸男子ヲ喇殺ス

少年なり其の時勢に通するの一點よりして云ふ時ハ少年は人形使ひにして老成者は人形ありと評するも敢て不可なき筈なるに我少年諸子の無氣力なるや人形使ひの位地に在りながら却つて人形の爲めに左右せらるゝの奇觀なしとせず是れ畢竟其の位地責任の極めて重きことを知らざるが爲めなり苟も之れを知らは焉んぞ俳優講談師の徒を尊敬し其の假聲を使て得意を鳴すが如きあるべけんや泰西人の如く年齢七八十に達するも尚ほ矍鑠として世事に奔走するを得るの躰格を有せは二十歳前後にして尚ほ乳臭を

一世ノ少年ヲ罵盡シテ顔色ナカラシム然リトハ雖モ少年ヲ愛シテ其極ニ達スル者ニ非スンハ此苦口ノ良藥ヲ進ムル能ハス

脫せず童氣を帶ぶるも或は可なりと雖ども吾が日本人は年齒僅かに六十前後に達すれは既に頽然として老ゆるの人種なり少年十五二十時歩行奪取胡馬騎の氣慨あるに非ずんは何を以てゝ一生の短かきに大事を遂行することを得んや然るに今日の少年は泰西人の如き童氣も無けれは左りとて亦た幕府時代の少年の如き大人氣も無く其の因循なる所は老人に似て其の無思想無氣力なる所は童子に似たり故に其の元氣益々衰弱して活潑敢爲の氣性を失ひ進歩改良の風潮を作つて老成者流を指揮誘導すること能ハず却つて

之れが後へに附從して其の命令を奉承するの形情あり嗚呼社會の動力とも謂ふべき少年にして尙ほ此の如し目下世勢沈滯して百事皆な因循姑息を極むるは蓋し怪しむに足らざるなり

第二章　時弊と少年の關係

守株膠柱の陋見を固執して徒らに變化を是れ忌む者素より非なり輕躁浮薄にして猥りに變化を是れ好む者亦た可なりと謂ふ可からず成を守るも老人の長所にして業を創むるは少年の長所なり創業守成は國家を維持する所以の二大要素にして二者其の一を缺く時は國家到底衰亂を免かれず若夫れ創業の要素獨り跋扈して守成の要素に乏しからん乎社會常に動搖して靜着休止の時なかるべく之れに反し守成の要素獨り跋扈して創業の要素に乏しからん乎社會萬般の事悉く停滯して進步改良する能はざる可し而して國家の進步は活動に生じ其腐敗衰弱は停滯不動に生ず然り而して少年は創業の氣象を代表し老人は守成の氣象を代表す少年の國家を維持するに於て與つて力あること豈に一步も老成者流に讓らんや世の少年たる者宜しく浮佻輕薄の陋習を掃蕩して深く自ら任すべ

少年ノ價値益々重シ

きなり

少年ノ價値益々重シ

特に今の日本は創業世界にして守成世界にあらず進んで新奇の事業を創起するにあらずんは退て成を守らんと欲するも一も守つて以て國家を富強ならしむるに足るべき事業かきなり果して然らは今日の日本は創業の氣象に富める少年の當に擔任すべき所にして彼の守成の氣象に富める老人の當に擔任すべき所に非ず言辭を換へて之れを云へは今の日本は少年の日本にして老人の日本にはあらざるかり然るに世の少年者流動もすれは事を老成者流の爲す所に一任し

所謂ル新日本即チ是レナリ

て毫も頓着せざるが如きは何ぞや吾輩の深く少年諸子の爲めに惜しみ且つ怪しむ所かり夫れ諸子只だ事を老成者流の爲す所に一任す故に眼を擧げて中原の形勢を觀察すれは我日本の如きハ特に迅速の進歩を要すと雖ども遲々として進まず殆んど老牛の一歩一喘に似たるあり加之あらず世人多くは活潑敢爲の元氣を沮喪して毫も進取の氣力なく畢生の心願唯だ一身の安樂を計るに過ぎざるものゝ如く然り斯くの如くにして因循日月を經過せは歐米諸國に對する貧富强弱の懸隔は日に益々大にして毫も之れを減縮する

滔々天下皆是レ也俗物ノ跋扈スルヲ亦タ異ムニ足ラサルナリ僕曾テ詩アリ云フ世上匆皇多俗士、人間快活幾男兒又云フ遠圖

不講富強策姑息且欣安樂窩、ト皆ナ士氣廢頽シテ俗物國ヲ害スルヲ憤フルニ出ツ

少年ノ責務ハ大ナルヿ此ノ如シ豈ニ一日モ優遊空過シテ可ナランヤ

能はざるべし土耳古、埃及の衰弊遂に免かるゝこと能はざらんとす而して之れを救ふの計只だ一あり少年固有の長所たる慷慨激烈活發敢爲の氣象を振作して之れを老人固有の長所たる沈着持重の氣象に混和して以て其の因循姑息に流るゝを防くにあるのみ世の少年たる者若し之れを以て自ら任せざれは社會ハ只だ守成の老氣を存して創業の壯氣を留めず沈滯靜停の極、腐敗せざれは必らず衰死すべ〳〵然るに世の少年諸子徒らに長短を俳優若くハ講談師の假聲に爭ひ奮然蹶起して滔々たる此流弊を救ふことを知らず甚だし

眞個此小人アリ吾レ其面ニ唾セント欲ス

少年ハ幾ント是レ救世主

き、則ち老成着實の假面を裝ふて俗人の歡心を買はんと欲するに至る卑屈無氣力の極と謂ふべし本邦今日の弊患は守成の老氣跋扈するに在り而〳〵て之を救ふハ少年固有の活潑敢爲の氣象を注入するに在り今日の弊患は人々皆な元氣を沮喪して因循姑息に流るゝに在り而して之を救ふは少年固有の慷慨激烈の氣象を注入するに在り然るに世の少年生たる者斯る重大の責務を以て自ら任するをは爲さず却つて酒色の間に貴重の日月を消過し恬然恥ぢざるもの滔々皆な是れなり其の俊秀にして意を世事に用ゆる

慷慨ハ一タビ壯士拳屈シテ卑屈ナル頭上ニ陷ハシメザルヲ義烈ノ一ヲ彼ノ無氣力ノ俗物ノ

者と雖ども徒らに老成着實の假面を裝ふて流俗を瞞過せんと欲するに過きず豈に痛嘆せざる可けんや想ふに如何なる人物と雖ども固有の長所なきはあらず我が短所を以て人の長所に當らんとすれは到底勝筭を得べからずと雖ども人の短所に當るに我が長所を以てすれは凡夫も猶ほ賢者と拮抗するを得べし今ま少年如何に穩當着實の假面を裝ふも決して之れを以て老人と拮抗し得べきにあらず之れに反して老人如何に慷慨激烈活潑敢爲の氣象を振作するも決して之れを以て少年に當り得べきにあらず蓋し穩當着實は

是レ少年ノ奉シテ以テ六韜三畧ト爲スヘキ者ナリ

老人固有の長所にして慷慨激烈活潑敢爲は少年固有の長所なれはなり果して然らは老成者流と對立して勝を制せんと欲するの少年は故らに我が短所に就いて穩當着實の假面を裝ふ可からず宜しく活潑敢爲の長所を以て彼れが短所を攻む可きなり單に老人と對立して勝を制せんと欲するもの猶ほ且つ然り況んや方今國家の流弊に於て苟も憂ふる所あるものに於てをや然るに少年中の俊秀ふる者毫も慷慨激烈の氣象を振作して滔々たる流弊を矯正せんとは力めず却つて穩當着實の假面を裝ふて俗物の歡心を買はんと欲

す吾輩啻だ其の心事の卑劣なるを嘆するのみならず亦た對戰の兵略に拙きを嘆ずるより寄語す世の俊秀少年、穩當着實の氣象若し今日に必要なりとせは何んぞ老成人士をして獨り世事を專らにせしめざるや諸君如何に巧みに穩當着實の假面を裝ふも假面ハ到底假面たるを免かれず之れを老成人士の眞面目に比すれは固より三舍を避けざるを得ず、借問す世の俊秀少年諸君は今日の時世を視て創業の時世とは爲さゞるや活潑の運動と迅速の進歩とを要するの時世とは爲さゞるや今日の流弊ハ慷慨激烈に在らずして却つて

自ラ假面ヲ裝フナリ可ハ尚ホ假面ノ裝ヒ爲チ者ノ瞞ヲ過セ己ラ亦モ假ヲ面ヲ裝ヒタ義ヒ偶ナ人クヲ節ナ如ク偶ノ形ノ如ク命惟レ奉ス唯ニ至ルテハ佞ノ物ニ幾ハ人ニ忽ト道ナキスル也

因循姑息に在ることを知らざるや諸君にして苟も之れを知らは何んぞ穩當着實の假面を裝ふて愈々流弊を助長することを爲さん諸君にして苟も其の政略を改めざる以上ハ國家決して富强の途に上ることを能はず諸君決して其の勢力を伸張することを能はざるなり

第三　既往及び現在の少年

老成者は慷慨激烈活潑敢爲なる少年の氣象を得て始めて因循姑息の通弊を免かるゝを得べく少年は沈着持重なる老人の氣風を得て始めて過激の通弊を免かるゝを得べく老少相ひ和して各々其の本分を盡し

一方の長所を以て他の短所を補救して功業始めて期すべきなり老人の勢力強大に過くれは世事沈滞して迅速の進歩を爲すこと能はず少年の勢力強大に過ぐれは世態動揺して眞正確實の進歩を爲すこと能はず此二類の人物が國家に負ふ所の義務責任蓋し亦た大なりと云ふべし然るに今日の少年者流は老人に壓倒せられて其の當さに使用せざるべからざる勢力を失墮し國家の利害休戚を傍觀して毫も與り知らざる者の如く然り試みに想へ孔明が天下三分の計を懷て南陽に高臥せるを享年二十六七の際に非ずや英相ピットが出でゝ大宰相の實權を握れるは二十三四歳の時に非ずや此他具氏の如き微侯の如きも亦た二十二三歳にして政治世界に雄飛するの端緒を發けり若し和漢洋古今の歴史に就て此等の事迹を尋ぬれは僕を更ふるも數ふるに遑あらざるべし我が今日の少年者流豈に之れに對して冷汗背に透るの思ひなきを得んや人或は云はん右擧ぐる所の如きは皆な天下有數の俊傑にして千百載の一人なり豈に之れを以て廣く世上の少年を規すべけんやと蓋し非を掩ふの遁辭なるのみ知るや否や其の目的百里の外に在て實効五十里の

巧保身ハ則チ之レアリ明哲ノ二字ハ冠シ難キニ似タリ呵々

内に止まるは吾人の常患なることを、然るに今ま俊傑を以て自ら期せず凡夫を以て自ら居らんとす吾れ其の造詣する所の極めて卑近にして尋常の凡夫とだも爲ること能はざらんを恐るゝなり吉田松陰詩有り曰く

事雖レ半古人。功則倍二古人。不唯七雄際。
思レ之心悲辛。如何今君子。明哲巧保レ身。

是れ王政維新前の述作なりと雖ども其の意を推究すれば恰も今日の爲めに作れる者の如きを覺ふ凡そ利害安危の岐るゝ所は常に國家變革の際に在り而して國家變革の際は手に唾して功業を收むるに最も容易

讀テ此ニ至レハ人ヲシテ踴躍止ム能ハサラシム

なるの時期なり政治上、理財上、社會上、事業上、萬般の變革凡て目下に迫り今後年數を出でずして世事悉く其の面目を一新せんとするを今日の形勢にあらずや是れ有爲の士に取つては千載の一遇とも謂ふべき好時機にして所謂る事雖レ半古人。功則倍二古人。の時勢なり然るに世上の少年者流平和の武器を執つて偉大の功業を收めんとて努めず却つて茫漠無爲の間に貴重の日月を經過し其の稍や俊秀なるものと雖ども徒らに老成着實の假面を裝ふて俗物を瞞過せんと欲するに過ぎず松陰氏をして此の狀景を見せしめは、如何今措

今ノ少年須ラクク明治近世史ヲ熟讀シ維新前後ノ各藩浪士ノ快濶勇壯ナル擧動ヲ觀察スベシ庶幾クハ腐敗セル柔腸ヲ洗フテ生氣ヲ回復スルヲ得ン

大狡猾巧保身と罵り去らんも亦た未だ知るべからざるなり

戊辰鼎革の前に方て國事に奔走せる者の言行を觀察すれは瑕瑾素より多しと雖ども其の若齡の身を以て自ら國家の重きに任じ勇往奮進毫も一身の利害を顧慮せざるに至つては吾輩深く其の慷慨果敢なるに服するなり吉田松陰は臥龍出廬の年齡に前後するの一少年を以て大藩の士氣を皷舞し橋本左内は二十四五歲にして既に隱然朝野の重きを負へり此他屍を十津河の寒月に曝らし骨を生野の銀山に埋めたる者多く

一讀壯快、匣中長劍欲鳴、

は皆な白面書生に非ざるはなし唯た今の日時勢は當時の勢に異なり長劍を揮つて

秋なれはこき紅葉をも散らすなり

我が討つ太刀の血けふりを見よ

と朗吟するが如きは志士の固より爲すべき所にあらずと雖ども三寸不爛の舌を以て三尺の劍に代へ五寸の筆を揮つて敵黨の堅壘を擣くが如きは今の時勢に適應するの處置なり國家多難の今日に方り徒らに寄席劇場の遊覽を快とし下宿屋の二階の空論に安んずるは王政維新前の少年に對して慚つべきの極にあら

明治政府ノ内閣諸大臣ハ皆ナ多ク壯年ニ當時ノ壯活潑ニシテ勇壯雷霆ノ擊動ニ電擊シテ以テ政治ヲ改良シタル人ナリシ今日

ずや

議論より實を行へなまけ武士

國の大事をよろに見る馬鹿

此の歌激にして且つ卑しと雖ども以て今の少年者流を戒しむるに足れり

首を回らせば僅々二十餘年前に過きずと雖ども當時に在て專ら國事に奔走し以て回天の偉功を奏せる者は概ね皆な紅顏の少年なり王政維新の大變革ハ慷慨激烈活潑敢爲なる少年の手に成れる者なり若し少年の勢力をして今日の如く微弱ならしめ其の意氣をし

ノ少年ガ國事ヘ政治ヲ憂ヘテ日夜奔走スルハ所謂乃公ノ志ニチルニ繼クモノ喜ビコレヲ決シテ怒ルレハ今日ノ宜シク益々激ス少年ハ奏功ノ偉蹟ニ勵ミ諸公ニ倣フベシ復何ノ躊躇カ之レ

て今日の如く因循卑屈ならしめは維新の大業恐らく容易に成就せざりしならん雲霧を排して白日を現はし吾人をして此の清明天地に生息することを得せしめたる者も大抵皆な少年志士の功なり今日の少年若し其の志を繼き奮然自ら進んで國家の重きに任ずるに非ずんは維新の大業も中道にして其の光輝を滅し變革改良の功未だ半に到らずして既に停滯退却の憂ひを生ずべし苟も此の如くんば現在の少年ハ啻に既往の少年の罪人たるのみならず亦た國家不忠の臣民なり然りと雖ども今の少年は皆な國事に冷淡にし

て唯だ一身一家の逸樂を是れ慮るに非らず偶々社會の空氣の腐敗に制せられて因循日月を經過するのみ若し人あり奮然蹶起して之れに率先せは四圍の人皆な懶睡を覺まして活潑敢爲の氣象を振作するも必然の勢ひあり嗚呼天下の事常に先鞭を着するの士なきを憂ふ眞木和泉曰ハずや

おくれなは色も櫻に劣るらん
いろくそ梅の匂ひなりける

と世間誰れか先鞭を着して梅花と同しく魁春の芳名を収むる者ぞ吾輩の見る所及び少年諸子に望む所凡そ此の如し諸子尚ほ遁辭を設けて抗辯せハ吾輩復た何をか云はん唯た

心をは こゝろに問ひて正せかし
我れはかりよく知るものはなし

と答へて止まんのみ

第四章　少年の無勢力なる最大原因

吾輩ハ今の少年が固有の長所たる活潑敢爲の氣象を抑へ故らに老成着實の風采を裝ふて世に媚ぶるの不可なるを論せり其の言稍や激なるに似たり」と雖ども固より惡意ありて少年諸子を誹謗したるにあらず蓋

名言至理古人ノ未ダ曾テ道破セサル所ナリ

〜斯く云ふ著者も亦少年社會の一人にて平生老成者流の因循姑息なるを痛憤するものゝかれはなり議者或ハ曰ふ故らに鋭氣を抑へて老成着實の體面を裝ふも猶ほ老人社會に容れられざるを憂ふ若し活潑敢爲ハ少年固有の長所なりとて充分に此の氣象を發露せは其の社會の爲めに擯斥せらるゝこと果して如何ぞや是れ深く思ハずんはあるべからざるなりと吾輩窃こに以て誤れりと爲す抑も國家の因循に流れず激烈に失せず恰も其の中道を進むことを得る所以の者は老少二流の人互に其地歩を維持し相ひ對立して毫も讓る所かきに因れり然るに年少氣鋭の人若し其の敢爲の氣象を壓抑して老成者流に諂はゞ老成者流の言行獨り社會に跋扈して毫も少年の言行を留めざるに至るべし苟も斯くの如くならは世に少年を存する利益果して安くに在るや天の少年を生じたるの意恐らくハ之をして老成者流の奴隷たらしむるに在らざる可きのみ

人に容れらるゝの計は單に諂諛の一方に止まらざるなり否か諂諛は計中の至拙なるものなり然るに今の少年諸子は其の活潑壯快なる氣象を振作して老成者

諂諛ハ人ニ容レラルヽヲ求ムル計中ノ至拙ナル者タルヲ

知ラズ阿諛諂佞唯命惟従レテ以テ其容ヲレテ求ンレテ其志慣ムレテ其愚笑ム可ク可ク可シ媚世ノ少年宜ク三復スベシ

流を驚服せしむることを知らず却つて其の鼻息を窺ひ其の言行に摸擬して一顧の憐を乞はんと欲す豈に卑屈の最も甚たしきものに非ずや、吾輩常に謂ふ少年諸子の其の潑活壯快なる氣象を屈抑して老成者流に容れらるゝは寧ろ縱横自在に之れを發作して其の擯斥を受くるに如かずと假令ひ擯斥せらるゝも必ず多少老成者流の意想を動かし之れをして進取の氣象を發起せしむることを得べけれはなり而して之れが爲めに社會を利するの効能は固より天眞を喪ひ盡して半死の老人に媚ぶるの比類にあらざるなり夫の幕府の末路に當り劍を按じて慷慨悲歌せる年少氣鋭の徒をして若し其の天眞を枉げて老成着實の氣風を摸擬せしめは王政維新の大功を慶應の末年に奏することは能はざりしや必せり三百年の積弊を掃蕩して明治中興の基を開けるは少年諸子の功なり否な當時の少年諸子が枉げて老成着實の氣を裝はず勇往奮進毫も顧慮する所なかりしに因れり

眞然々々、

議論一層ハ一層ヨリ切ナリ夏雲奇峯ヲ擺クカノ概アリ

今の少年も智慮の足らざるを患へず經驗の足らざるを患へず事務に老練ならざるを患へず唯だ自任の心に乏しきを患ふ自ら任するを苟も重けれは固有の長

自任ノ二字一篇ノ眼目

所を屈抑せずと雖ども老成者決して之れを擯斥することを得ず諂諛媚嫵の醜態を學ばずと雖ども世間素より之れを容れざるを得ず因循姑息の弊風社會に跋扈せんと欲すと雖ども少年の元氣に刺擊せられて到底跋扈すること能はざるなり想ふ擧止進退を斷ずること輕急にして其の志想の數々變轉するは少年固有の短所なり而して其の基く所を尋ぬれば自任の心未だ深からざるに在り自ら任ずる所をして苟も重からしめは事の利害を斷ずる決して彼れが如く輕急ならず其の思想決して彼れが如く數々變轉せざるなり

堂々ト論客ヲ以テ自ラ居ルル者其ホ尚ハシ言ヲ節ヲ變シ食ム者多シ況ンヤ其ノ他ノ今少年ノ方ヲ通ジテ得キ奬説ニ入ル

且つ老成者流の之れを擯斥して任ずるに大事を以てせざるも亦た職として是れに之れ由れり自ら任ずること輕くして人の己れに任ずることの重からんを望み自ら敬ずること少くして人の己れを敬ずることの多からんを望む是れ豈に今日少年諸子の通弊にあらずや古人云はずや人自ら侮つて而して後ち他人之れを侮ると今の少年諸君は自ら侮るものなり自ら任ずること極めて輕きものなり其の世間の爲めに輕侮擯斥せらるゝも亦宜ならずや

幕末の少年は勤王討幕を以て自ら任ぜり故に能く此

史乘ノ實列ヲ列擧シテ古今英雄自任ノ高ヲ示スノ議論益々剴切ナルヲ覺フ

の大功を奏せり臥龍孔明は天下三分の計を以て自ら任ぜり故に能く玄德を援けて蜀、吳、魏、鼎立の形勢を作ることを得たり賴朝、義經は流離漂泊の少年生に過きずと雖ども平氏を斃して宿怨を雪ぐの事を以て自ら任ぜり故に能く其の功績を奏することを得たり此他和漢洋の史籍に就いて其の例證を覓むれは少年の成就し得たる大勳偉績實に枚擧に遑あらず而して其の能く之れを成就し得たる所以を尋ぬれは只だ自任の二字に在り今の少年諸子其れ之れを思へ

第五章　老人と少年の關係

議者或は曰ふ少年をして枉げて其の鋭氣を抑へしむるも尙ほ輕急粗暴に流れんことを恐る若し之れをして抑束する所なく社會に跋扈せしめは妄變濫改底止する所を知らず社會は之が爲めに動搖不定の憂ひを被むるべしと此說一理なきにあらざるが如しと雖ども吾輩決して同意する能はざるなり維新以降制度法律を始めとし世間萬般の事悉く動搖不定の憂ひを被むれる所以の者は唯だ年少氣鋭の徒專ら世事を經營したるが爲めのみに非ず職として一朝突然鑽港の長夢を覺され睡眼朦朧として恰も五里霧中に彷徨する

に際し既に早くも泰西の制度文物を移入するの必要に遭遇したるに之れ由るなり此時に方てや假令如何なる老成着實家をして其局に當らしむるも素より昨是今非朝に令して夕に改むるの過失を免かれず況んや王政維新以來今日に至る迄の歴史は老少軋轢の歴史にして其の勝敗强弱の勢ひ屢々變轉したるをや社會が動搖不定の憂ひを免かれざりしは當然必至の理なるのみ

若し老成者流をして常に其局に當らしめは泰西文明の事物の本邦に入ること決して此の如く迅速ならざるべし假令動搖不定の憂ひを被むるも之れを遲々として進まず東洋古來の陋習を株守するに比すれば其利固より多し日本の進歩の支那に比して甚だ迅速なりしは其原因一にして足らずと雖ども年少氣鋭の徒が世事の局面に當れるの一事も亦た其大原因ならざるを得ず果して然らは王政維新の功績を慶應の末年に奏することを得たるも少年諸子の力與つて多きに居れり爾後盛んに泰西文明の事物を移入することを得たるも少年諸子の力與つて多きに居れり二十年の泰平に昏醉して上下頗る遊惰に流ると雖ども國家未

今日滿天下ノ少年中既ニ往ノ少年ニ對シテ恥ナキモノ幾ンド稀ナリ

だ全く其元氣を喪亡するに至らざる所以の者も亦少年諸子の力與つて多きに居れり諸子の既往に奏せる功績は此の如く其れ多し將來の事業若し之れに添はずんば將た何の面目あつて既往の少年に見にんとする乎

驕奢懶惰は目下の通弊にして其國力を衰亡せしむることと實に大なり而して其原因は少年の勢力大に衰弱したるに在り蓋し老成者は既に多少の事業を成就したるの人にして將來之れを成就せんとするの人にあらず故に功名の志自ら小にして前途の望亦た自ら少なからざるを得ず功名の志薄ければ艱苦に堪ゆるの氣力隨つて薄弱ならざるを得ず前途に屬する所の望み少なければ切磋琢磨の志自ら減少せざるを得ず是れ老成者流の動もすれば驕奢懶惰に流れて餘生を緣酒紅燈歌舞逸樂の間に送過せんと欲する所以なり果して然らば驕奢懶惰の弊風社會に流行するハ前途無望なる老成者流の社會に跋扈するが爲めなり此弊風を矯正して勤勉活潑の美風を奬勵するの大任に當るべき者は前途多望なる少年諸子にあらずして誰ぞや夫れ少年は事業を將來に成就すべきの人にして既に

議論明快毫髮遺憾ナシ

之れを成就したる人にあらず故に因循爲すなく空しく日月を消過せば其の身は草木と同じく朽敗して天下後世復た一人の其の姓名だも記する者なかるべし而して男子の汚辱は身死して名後世に傳はらざるより大なるはなし是れ少年者流の功名心に富み萬般の望みを擧て前途に屬する所以なり唯だ其れ功名心に富む故に如何なる艱難辛苦と雖ども之れを忍ぶの氣力あり唯だ其れ前途多望なり故に目前の快樂を貪つて身体名聲を毀傷することなし是れ目下の弊風は少年進んで之れを矯正するの大任に當らざるべからざる

百尺竿頭、更ニ一歩ヲ進ム

所以なり然りと雖も世の少年皆な斯の如き意氣ありこの如き大任に當り得可しと云ふに非ず少年たる者は斯の如き意氣なかる可からず此の如き自任心なかる可からずと云ふのみ苟も自ら任ずること重きの少年あらは其身を處すること必らず吾輩の右に述たる所に違はざるべし

今日の少年を以て維新以前の少年に比すれは其の因循卑屈にして自任の心に乏しきこと實に驚くべしと雖ども是れ獨り諸子の罪のみにあらざるなり維新以前に在つては老成者流の門望高き者多くは實力なく

之ヲ戴ク實ニ可ナリ之ヲ拜シテ先ヅ覺ヲ崇メテ奴僕タル者ノ甘ンズル男子ノ腸既ニ全ク腐レタリト云フベシ

實力ある者多くは門望卑くして其の志を當世に行ふこと能はざりし故に少年の事を爲すや必らずしも老成者流を戴いて其の首領と爲すことを要せず假令之れを戴くも單に門望を以て戴かれたる首領ハ麾下の士容易に其の意向を動かすことを得たり今や則ち然らず朝野に在つて重きを負ふの士は大抵皆な實力を有するの老成者にして苟も之を戴くにあらずんば俊才逸足の少年ありと雖ども廣く世間の認承を受くること能はざるなり既に世人の認承を得ること能ハず其の大事を遂行すること能はざるハ當然の理勢なり

此ノ如ク論ジ去テ方今ノ少年始テ慚死ノ憂ヲ擯免ルベシ縱自在、殺活意ノ如シ

此一論ナカル可ラズ

且つ今日上流の位置を占むる所の勢望實力兼備の老成者は單に門望有つて實力なき從前の首領と違ひ少年の身を以て之れを動かすこと極めて難し左りとて之れを戴かざれば世人の認承を得ず之を戴けば我が意見に據て之れを動かし難きの憂ひあり是れ今の少年の進路を横斷する所の一大困難に非ずや論じて此に至れば吾輩亦た廣く世人の信任を有し名の隆熾なる老成者に向つて望む所なき能はず何ぞや曰く因循姑息の通弊を脱却して敢爲活潑の氣象を振作すること即ち是れなり若し然らずして因循爲すなく日月を

豪壯逸宕讀ミ去テ紙上雲捲キ雷轟ノヲ覺フ

送過せは徒らに少年志士の進路を妨害して活潑有爲の氣象を喪亡せしむるに終らんのみ寧ろ高蹈勇退して餘生を花鳥風月の間に送るに如かざるなり

第六章　壯士の勢力及び責任

慷慨激烈死を視る歸するが如きもの是れ壯士と謂ふべき乎、曰く然り、强を畏れず弱を侮らず好んで人の急に赴くもの是れ壯士と謂ふべき乎、曰く然り、切齒扼腕大聲壯語して正を揚げ邪を抑ゆるもの是れ壯士と謂ふべき乎、曰く然り、口角味を飛ばし舌端風を生じ日夜國家の利病を談論して一身一家の事を顧慮せざるも

世ノ壯士ヲ以テ自ラ任ルメ者豈ニ負任ノ極テ重大ナルヲ思フテ輕急

の是れ壯士と謂ふべき乎、曰く然り、壯士の資質は甚だ多くして其の勢力は至大至剛以て世の風潮を左右し以て社會の輿論公議を動かすに足れり世間若し壯士なるものなくんは俗物權を專らにして俗氣社會に充滿し諂諛者は愛せられ卑屈者は用ひられ世人唯だ營々役々として螻蟻に均しきの生計を營むに至るべきのみ今日風紀亂れて人心腐敗し偷安姑息の弊風社會に横被すと雖ども國家尙ほ未だ老衰の悲況に沈淪せず政治社會尙ほ幾分の生氣を留むる所以の者は他なし慷慨激烈豪宕敢爲なる壯士あつて時々晴天の霹靂

粗暴ノ言行ヲ慎マサル可ンヤ

を欺くべき沈痛の言行を爲し以て俗物の耳目を驚破するに因るなり嗚呼壯士微つせは國家何を以てか老衰疲弱の患害を免るゝことを得ん

夫れ壯士は社會の動氣なり國家の生力なり國に壯士あるは猶ほ天に雷電あるが如し陰雲怪霧結んで解けざるに方り一震一擊忽ち之を駁散して靑天白日を現出せしむるは是れ雷電の力に非ずや俗氣社會に充滿し國家正に偷安姑息の弊患を被むるに方り驚天動地の言行を爲して滔々たる流弊を掃蕩するは是れ壯士の力に非ずや見よ其豪邁なること漢高楚項の如き者

是レ一篇ノ主眼讀者匆々看過スル勿レ

と雖ども尙ほ逡巡畏怖するに方り博浪沙の一擊を以て天地を震動し劉項奮起の端を發ける者は子房部下の壯士なり又視よ德川氏三百年の積威を覆へすの端を發ける者も亦

岩が根も透らざらめや武夫の
國の爲めとてれもひきる太刀

と詠歌せる櫻田の壯士なり誰か壯士の勢力を微弱なりと謂ふや吾輩ハ唯だ其の至剛至大なるを見るのみ然りと雖ども秦初幕末は腕力世界にして時勢全く今日に異なり時勢既に異なれは其施す所の手段も亦た

從つて異ならざる可らざるは事理の最も瞎易きものなるに世の壯士と號する者動もすれは時勢の變化を知らずして守株膠柱の見を守り徒らに古昔腕力世界に於ける壯士の擧動の痛快なるに心醉して其の移し て以て今の文明世界に用ゆべからざることを知らず動もすれは則ち舊世界の壯士の手段を丸呑みにして其儘今の新世界に用ひんと欲す吾輩の深く壯士諸君の爲めに嘆惜する所なり

今の世界をして純然たる武力世界ならしめ執權者をして毫も文明の利器を用ひず書を燒き儒を坑にするの拙策ふ出でしめは壯士頑然として舊世界に行れたる陳腐手段を用ゆるも或は可なりと雖ども今や世態全く一變し兵馬の權悉く爲政者の手裏に歸し偵察の法、警視の便、幾んど具備せざる所なし此時に方り赤手を揮て帶甲十萬の政府ふ抗せんと欲す石に向つて卵を擲つの類なるのみ近時福島、加波山、飯田、大坂等の事件に與せる許多の壯士の着々失敗して一功を奏すること能はざりし所以のものは職として世態の變遷を知らず守株膠柱の陋見を脫せず今日の新世界に於て舊天地の微弱ふる武力を用ひんとしたるに之れ由

人ノ力ハ十人ヲ兼ヌル者ニシテ或ハ百人ノ力ヲ兼ヌルノ壯士ニアラズ單ニ腕力ニ頼マザルヲ以テ之ヲ政府ニ求ムルモノハ小兒ノ哭ニ異ナラズ

るゝより壯士にして苟も區々たる腕力に依頼し曾て神通無量なる智力ふ依頼せざる限りは今後と雖ども亦着々失敗して何等の勢力をも伸張すると能はざるべし

壯士の職任や重く其の勢力や大なり彼の腕力の如きハ諸君が有する勢力中の特に小なる者のみ死を視る歸するが如きと人の世間に有力なる所以の一大原因なり然れ共輕々しく此精神を使用して容易に生命を賭すれば身死して國に益なく草木と同じく朽るの結果を免れず慷慨義烈好んで人の急に赴くハ人の世間

世ノ壯士タル者宜シクテ肝ニ銘シテ忘レザルベシ

に有力なる所以の一大原因なり然れども手段を擇まずして妄に此氣象を用ゆれは志善しと雖ども之に稱ふの功績なからん是れ只だ瓦を毀て墁を畫くの類なるのみ此の他壯士の勢力を解剖して其の組織分子を尋ぬれは一にして足らずと雖ども妄用すれは則ち効力を沒し其の强点とハ爲らずして却つて弱点と爲る慎まずんはあるべからざるなり吾輩常に謂へらく腕力有て容易に用ひず死を視る歸するが如くにして容易に死せず機會を相して雷奔電掣の擧動を爲し以て俗耳を喝破する則ち是れ壯士の壯士たる所以にして

兩々對叙二者ノ優劣長短瞭乎トシテ火ヲ視ルカ如シ

其の國家を利益する所實に此に在りと夫の時勢の變遷を辨へずして唯だ腕力に依賴する者も或は壯士の美名を僭することを得べし美名の上に無智の惡名を冠せらるゝを如何せん

之を要するに彼の壯士なる者も國家の元氣、動機、生力にして國家能く老衰疲弱の患を免かるゝことを得る所以のものは畢竟壯士有て社會の懶睡を打破するに因れり俗物は社會を因循にし、壯士は之れを活潑にす、俗物も國家を老衰せしめ、壯士は之れを强健ならしむ、俗物は人を卑屈にし、壯士は之れを勇敢にす、俗物は社會を粉飾すと雖ども其元氣を削殺す、譬へは猶ほ病婦を起して花粉を着けしむるがごとく又食を減じて細腰を學はしむるが如し、壯士も社會を粉飾せずと雖も能く其元氣を增加す、譬へは猶ほ松柏の美花を放たざる代りにも棟梁の材たるがごとし、俗物ハ床間の置物にして壯士は棟梁柱石なり、壯士たる者豈に其責任の極めて重く其勢力の至大至剛なるを知て鞠躬盡力する所なかるべけんや諸君が有する健腕强脚の如きは其勢力中の特に細小なる者のみ彼の

いざさらば。冥土の鬼と。一と軍。

と遺吟せる山國兵部其人の如きも鬼神をも壓伏するの意氣言外に溢る快は則ち快なりと雖ども舊世界の壯士にして新日本の壯士の模範とすべき者に非ざるなり

跋

今の世界は維新前の世界にあらず今の少年何ぞ維新前の少年を學ぶ可けんや是書に謂ふ所有爲の少年なる者ハ彼の張臂瞋目高吟濶步我は天下の書生なりと誇稱する輩の謂にあらざるなり謂ふ所敢爲活潑の少年なる者ハ彼の爭鬪毆打己れを傷け人を害ひ我ハ天下の壯士なりと誇稱する徒の謂にあらざるなり德義に合ふの行動、道理に出るの勇氣學問に基くの主義、主義に由るの議論を以てするに非れは今の老

成人に代て國家の事に任する明治年間の少年たるを得ざるかり明治年間少年の國家に負ふの責任是書之を論ずる詳かり吾復た何をか言はん

明治二十年十月念二日讀了題　木堂居士

明治二十年十月二十日版權免許
明治廿四年九月廿六日印刷
仝　年九月廿八日訂正六版出版

定價八錢

著者　東京市神田區駿河臺鈴木町貳番地　尾崎行雄
發行人　仝　市日本橋區久松町拾四番地　白井永整
印刷人　仝　市京橋區彌左衛門町一番地　鈴木吉藏
發兌元　仝　市神田區西小川町二丁目五番地　博文堂　原田庄左衛門

特別大賣捌

東京市京橋區尾張町二丁目	雲山堂
仝　神田區表神保町	内山堂
仝　京橋區彌左衛門町	蘭中堂
仝　日本橋區小網町四丁目	田木社
仝　仝鐵砲町	青原郎
仝　京橋區南鍋町二丁目	梅西堂
仝　神田區錦町三丁目	朝港堂
大阪市　備後町四丁目	小契七
仝　市安堂寺町心齋橋	指治堂
京都市　寺町通四條北	信當衛
東海道　沼津町	嚴陽社
下野　宇都宮大工町	東新堂
金澤市　尾張町	東金郎
	海文堂
	京々堂
	海龜堂
	三兵山

終

9
1